

# データで見るさいたま市の“姿”

- ①まちづくり広報誌korekaraによる情報発信
- ②モバイル空間統計データの可視化

埼玉県さいたま市 都市総務課

# 1. まちづくり広報誌korekaraとは

## ■さいたま市の概要

- ・ 東京都心から20~40km圏内
- ・ 政令指定都市、県庁所在地
- ・ 新幹線6路線（大宮駅）が集まる東日本の交流拠点
- ・ H30.9に人口130万人突破



さいたま市都市計画マスタープラン (H26)

## ■まちづくり広報誌korekara

- ・ まちづくりに特化した広報誌
- ・ H17から発行スタート
- ・ 公共施設、鉄道駅等で配布（各号2万部）
- ・ 今年度末に29号を発行予定であり、都市構造可視化の掲載も検討

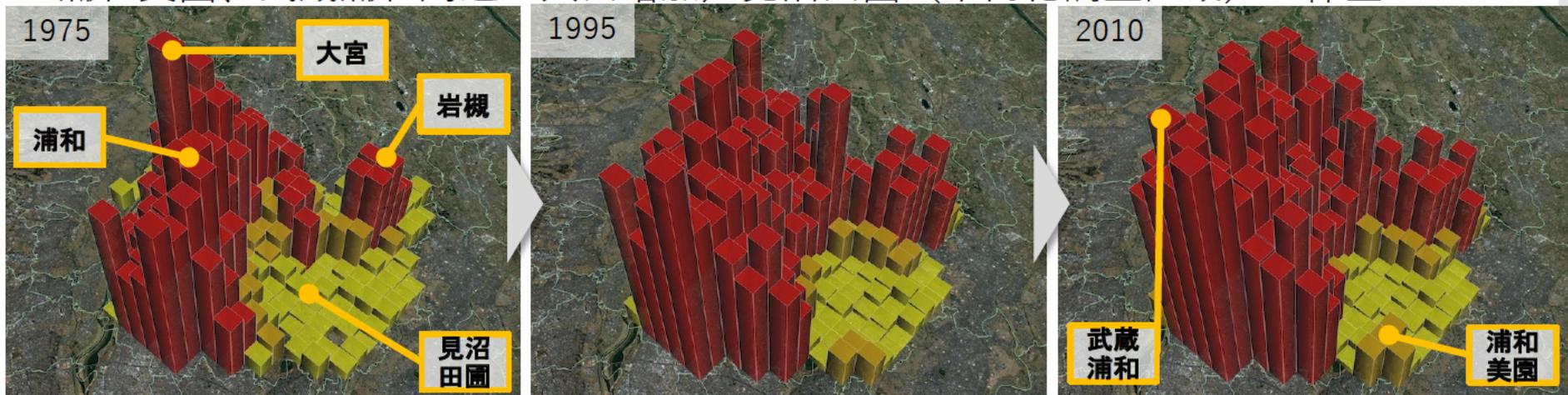


広報誌korekara 28号 (H30秋)

## 2. 広報誌に掲載予定の可視化図

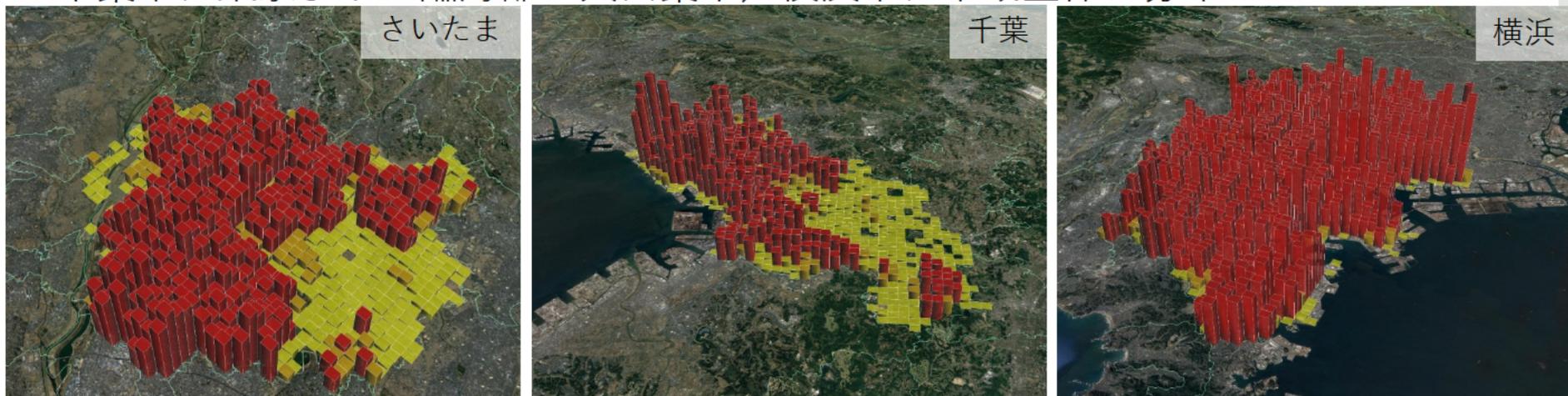
### ■夜間人口の経年変化

- ・大宮、浦和を中心に人口分布／南北の鉄道に沿って人口増加／浦和美園、武蔵浦和周辺で人口増加／見沼田圃（市街化調整区域）の保全



### ■横浜市、千葉市との比較

- ・千葉市は東京よりの臨海部に人口集中／横浜市は市域全体に分布



# 3. 広報誌面 (案)

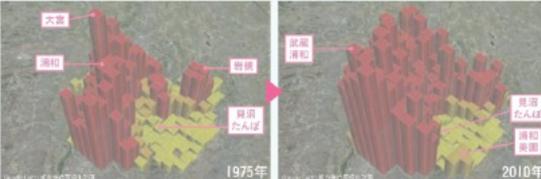
- ・ H31.3発行予定
- ・ 市HPでも掲載予定 (「さいたま市 korekara」で検索)



**「都市構造可視化計画ウェブサイト」を使ってみた**

都市構造可視化計画ウェブサイトは、インターネットを使って誰でも見ることができます。都市構造や都市計画について、改めて考えるきっかけになったり、ビジネスのヒントを得られるかもしれません。

**さいたま市の夜間人口の経年変化 (1975年→2010年)**



1975年から2010年にかけて、東北の京浜沿線を中心に人口が増えています。また、池沼美濃原周辺などでも人口の増加が見られます。原因として、鉄道が買収・延伸したことにより利便性が向上したこと、沿線住宅地の拡大が挙げられます。一方、見沼たんぼ周辺は大きな変化は見られず、緑地帯が保全されていることが分かります。

**さいたま市、千葉市、横浜市の夜間人口の比較 (2010年)**



千葉市は東京都に近いエリアに人口が集中しています。両側で人口が集中していることは大規模な住宅地整備が行われたエリアです。横浜市は両市と比べて人口が多く、鉄道や道路が充実しているため、市内全域に人口が集中していることが分かります。このように、地域によって人口の集積の仕方には違いがあることがわかります。

**ウェブサイトについて**

パソコンでウェブブラウザがあれば、無料で誰でも見ることが出来る。見たいデータを絞ること

<https://mieruka.city/>

については、トップページの「このサイトの使い方」から確認できます。

**データを地図上で見える化  
新たな時代のまちづくり**

まちづくり INDEX

内閣府は、VR技術や地球地図、各都市のビッグデータなどを活用し、空間的、数値的な理解が直感的に得られる情報基盤「都市再生」を構築しています。このシステムを構築した目的や活用方法について、システム構築に携った内閣府の赤星健太郎都市可視化調整官に伺いました。



内閣府 地方再生推進室 赤星 健太郎 都市可視化調整官

都市構造を3D地図で見える化したシステム

内閣府では、ビッグデータを活用した、見える化情報基盤「都市再生」を含む「都市構造可視化計画ウェブサイト」の活用を促進しています。

このウェブサイトでは、歴史的な人口、耕作放棄地など、様々なビッグデータを地図上で見える化し、数十年前から現在までの経過を見ることが出来ます。人口などは、約20年後まで予測したデータも見られるようになっていきます。

例えば、このシステムを活用して将来的に人口が増えるエリアを調べて小売店の新店舗を検討したり、人口推計や人口密度を調べて病院や高齢者施設の検討にも役立てることが可能です。

これまで、このシステムの知見とデータを持って、専門家によって作られるものでした。そのため、都市計画を考えるのは行政だけの仕事と思われがちでしたが、このシステムにより、誰でも自分から地域の都市構造を知ることが出来るため、行政以外の方でも都市構造を理解することが出来ます。また、データに付く全員が同じ情報を元に議論ができるので、市民参加のしやすい、関係者の合意形成が早くなるのもメリットです。

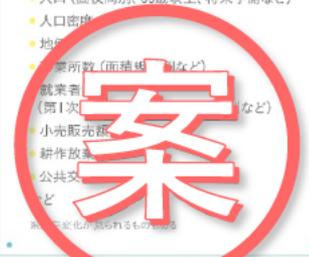
また、市民の生活への直接的なメリットとしては、まちづくりに関する市の取組がスピーディーになることが挙げられるでしょう。このデータは様々な組合せが可能ですが、地域の特徴や強みと弱みを手で取るようにわかるため、これまで以上に地域の特性に応じたまちづくりが可能になります。

**都市計画・まちづくりへの活用例**

- 人口の経年変化、将来予測
  - ↓
  - 今後の都市施設の立地や居住誘導などの計画の検討
- 人口×公共交通利用圏
  - ↓
  - 公共交通のカバー状況の把握、高齢化に対応したまちづくりの検討
- 人口×小売販売額の経年変化
  - ↓
  - 中心市街地の繁栄や衰退の状況把握、活性化の検討
- 人口×災害リスク
  - ↓
  - 安全エリアへの居住誘導策や災害発生時の避難対策などの防災まちづくりの検討

**「都市構造可視化計画ウェブサイト」で見られる統計データ**

- 人口 (昼夜間別、65歳以上、将来予測など)
- 人口密度
- 地価
- 業所数 (面積別、業種別など)
- 就業人口 (第1次、第2次、第3次など)
- 小売販売額
- 耕作放棄地
- 公共施設
- 公園
- 緑地

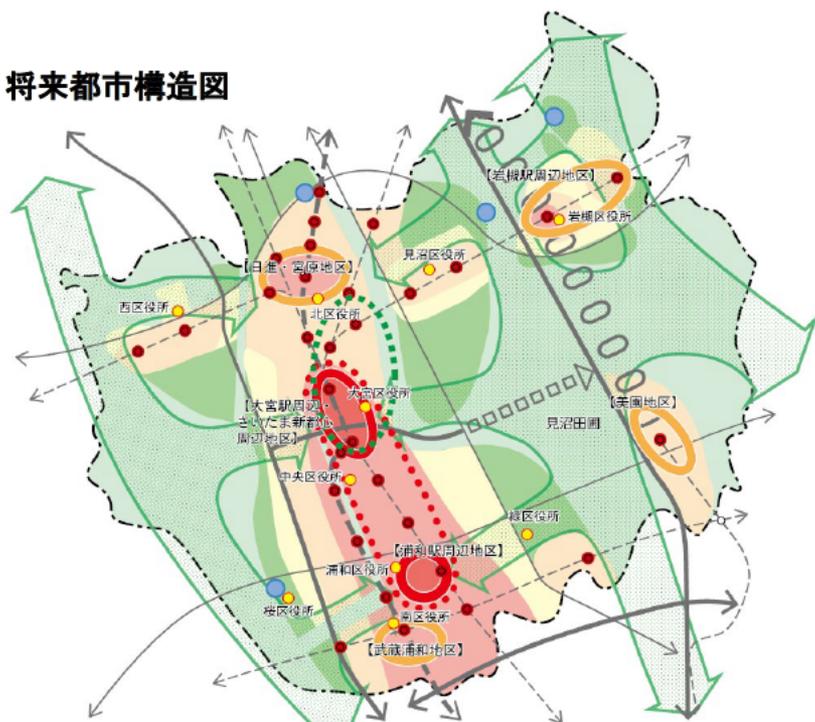


# 4. 本市の将来都市構造／モバイル空間統計データ

## ■さいたま市の都市構造

- ・ 南北方向の鉄道軸
- ・ 2 都心（大宮駅・新都心駅周辺、浦和駅周辺）
- ・ 4 副都心（日進・宮原、武蔵浦和、美園、岩槻）
- ・ 中央に位置する見沼田圃
- ・ 荒川、芝川、綾瀬川、元荒川

将来都市構造図



## ■モバイル空間統計

- ・ ドコモの携帯電話ネットワークの仕組みに基づいて作成される滞留人口データ
- ・ 通勤、通学以外の来訪者もカウント可
- ・ 平休日別、時間単位もカウント可

### ■使用データ

- 下記メッシュ内の滞留人口
  - ・ 2016.11（平休日の各平均）
  - ・ 24時間を1時間毎
  - ・ 性年代（10歳階）
  - ・ 居住地（市区町村・都道府県）

↑ 至 群馬県・栃木県

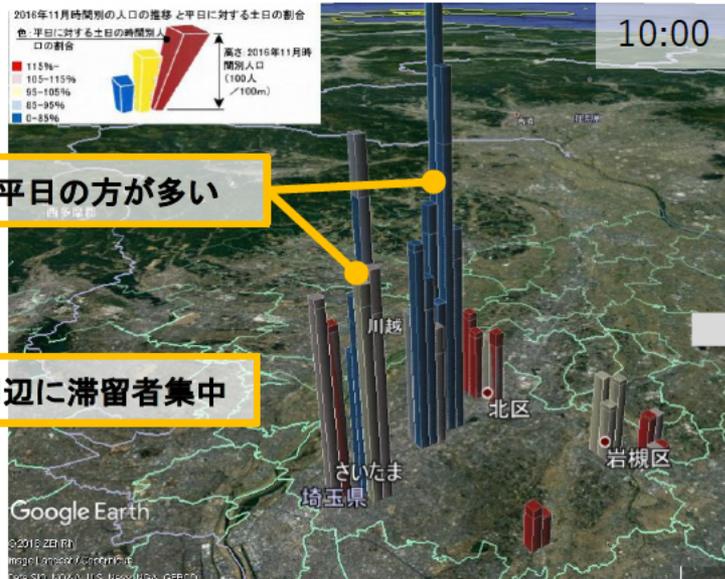


さいたま市資料（H29）

※「モバイル空間統計」は、株式会社NTTドコモの登録商標です

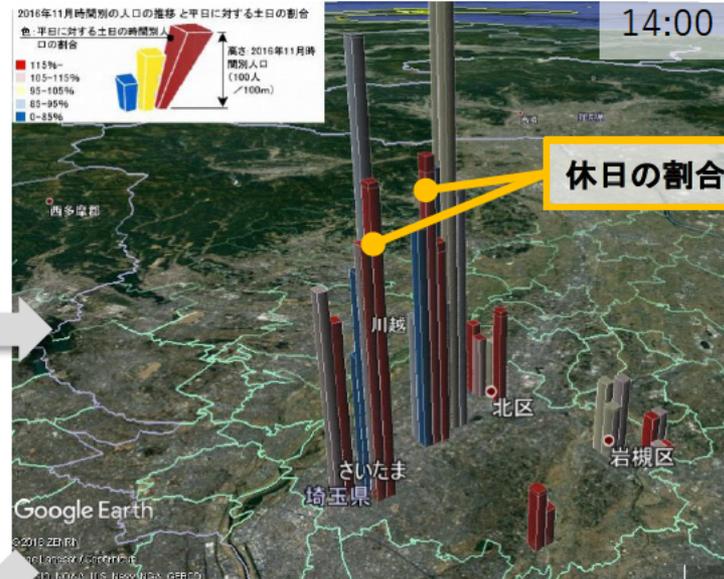
# 5. モバイル空間統計データの可視化

## ○2016年11月の時間別滞留人口推移と平休日比

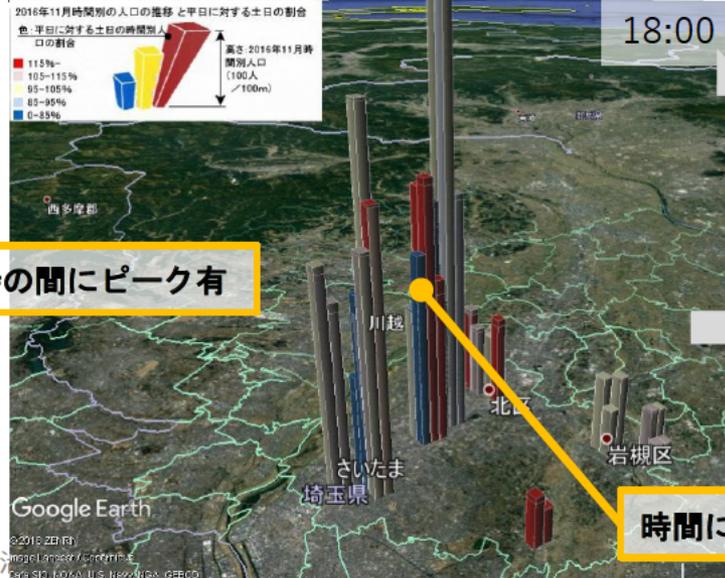


AMは平日の方が多

大宮駅周辺に滞留者集中

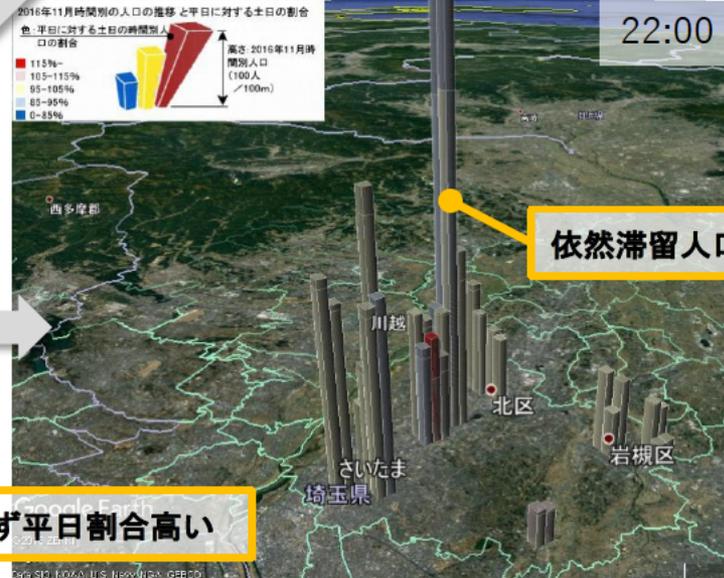


休日の割合が高くなる



14~18時の間にピーク有

時間によらず平日割合高い



依然滞留人口が多い

## 6. データ活用可能性

### ■各拠点に必要な機能の検討

- ・ 滞留者の特徴に応じた都市機能の検討
- ・ 再開発事業等に誘導する機能の検討（オフィス需要等を推測）

### ■帰宅困難者対策の検討

- ・ 来街者（滞留者から居住者、通勤・通学者を除く）を居住地別等に推計し、災害時の一時避難施設等と掛け合わせ、帰宅困難者対策を検討

### ■公共交通施策の検討

- ・ 来街者の目的地等から、バス路線やコミュニティサイクルのポート等を検討

etc.

# 埼玉県さいたま市都市総務課